

韓国大学生訪日団（第1～2団）・大学生訪韓団（第1～2団）オンライン交流の記録

1. オンライン交流概要

【目的】日韓双方で選抜された大学生が両国を理解するための講義聴講及び交流・意見交換等を通し、両国の協力・友好関係について理解を深め、広く対外発信することにより、両国の協力関係の重要性を広めることを主目的に実施しました。

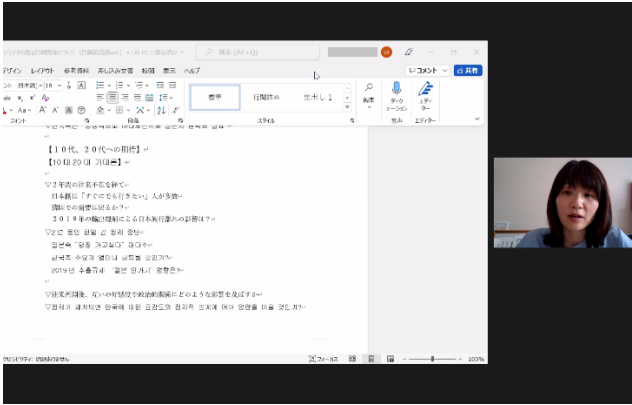
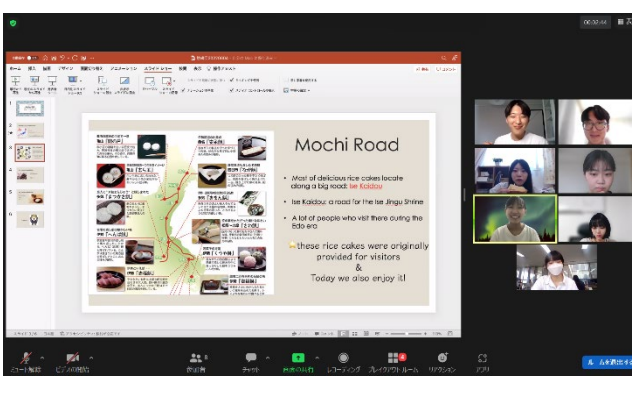
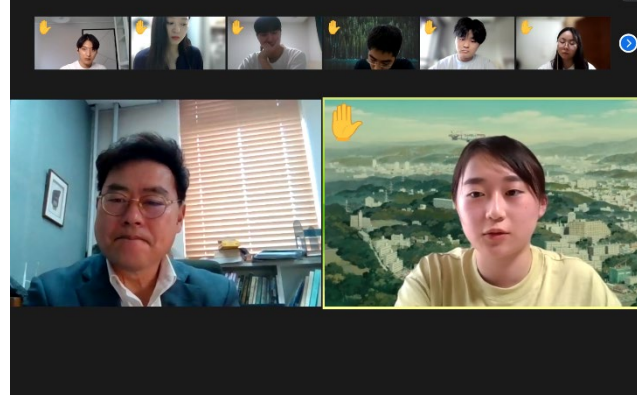
【参加者】日韓両国の大学生 84 名（各 42 名）

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数 実績）
1 回目 5 月 28 日 東京都、 北海道、 大阪府、 愛知県、 石川県、 沖縄県、 熊本県、 神奈川県 等	【オリエンテーション】 【テーマ関連講義・質疑応答】 「メディアから見る日韓関係について」 講師：毎日新聞政治部記者 大貫智子氏 ① 聴講 ② 質疑応答 【プロジェクト関連意見交換】 ① 自己紹介及び自国の魅力紹介 ② グループ別プロジェクトテーマの設定	講義では、韓国の新政権発足に伴う日韓関係への影響や変化、展望等について質問がありました。 グループ別プロジェクトでは、最初に自国の魅力紹介を行った後、本プログラムのテーマに即した関心事項等を共有することで、相手国の同世代が自国に対して見せる関心の高さを確認するとともに、両国の現状や今後の展望等について認識を共にしました。 （参加者：84名）
2 回目 6 月 4 日 埼玉県、 滋賀県、 富山県、 長崎県、 兵庫県、 広島県、 福岡県等	【テーマ関連交流】 グルメに関する地元の魅力紹介 【テーマ関連講義・質疑応答】 「日韓関係改善のために両国の大学生が抱える課題、そして展望」 講師：延世大学行政大学院長 金相準（キム・サンジュン）氏 ① 聴講 ② 質疑応答 【プロジェクト関連意見交換】 グループ別プロジェクトに関する討論	テーマ関連交流では、富山昆布を使ったかまぼこや韓国のトッポッキ等、各自の出身地や居住地域のグルメ紹介を通じて、地元の魅力を発信しました。 講義では、東アジア共同体の可能性や日韓両国における学歴社会の変容、日本の小都市の魅力等につき質問がありました。 グループ別プロジェクトでは、前週に策定したプロジェクトテーマ

		マや発表方法等について、日韓両言語を駆使しながら熱心に議論を重ねることで、相互理解を深めました。(参加者：84名)
3回目 6月25日	【プロジェクト関連意見交換】 グループ別プロジェクトの発表準備 【テーマ関連発表報告】 グループ別プロジェクト発表	総括として、本プログラムのテーマ「日韓の未来と次世代交流」に沿って各グループが設定したプロジェクトテーマについて、参加者同士が意見交換したり、調査したりする中で導き出した結論や成果等を発表し、両国の友好協力関係の重要性を再確認しました。(参加者：84名)

2. 記録写真

	
2022年5月28日【テーマ関連講義・質疑応答】 「メディアから見る日韓関係について」	2022年5月28日【プロジェクト関連意見交換】 自国の魅力紹介
	
2022年6月4日【テーマ関連交流】 グルメに関する地元の魅力紹介	2022年6月4日【テーマ関連講義・質疑応答】 「日韓関係改善のために両国の大学生が抱える課題、そして展望」

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

今までメディアを通して日本に接してきたが、今回の交流を通じて日本の同世代に会い、共に活動しながら、日本に対してより一層親近感を持つようになりました。

◆ 韓国 大学生

日本の同世代の方々と交流することができ、楽しかったです。日本の大学生から見た日本の魅力について、十分に知ることができました。

◆ 韓国 大学生

今まで日本文化について全く知りませんでしたが、日本側参加者の親切な説明と円滑な交流の進行により、多くのことを学びました。

◆ 日本 大学生

同世代の韓国の方々と話せる機会はあまりないため、大変貴重な時間を過ごすことができました。互いの国の現状を伝え合い、未来について考えることで、自国に対する理解も深まったと思います。

◆ 日本 大学生

海外の同世代の方々と交流することで、相手国を身近に感じるようになりました。相手国に友人を持つことで、日々のニュースを見る際にも関心を持つようになり、私自身の教養の幅が広がりました。また、プロジェクト発表の準備に向け日韓両国の比較を行う中で、日本について新たに知ったこともあり、自国と向き合うきっかけにもなりました。

◆ 日本 大学生

韓国の大学生が日本文化に興味を持っていたり、日本に行きたいという声を直接聞いたりする等、現地の韓国の方々とコミュニケーションを取ること自体が初めてだったため、大変貴重な機会であり、興味深かったです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 日本側オンライン講義講師（毎日新聞社関係者）

今回のプログラムを通じて、参加者の皆さんとお会いすることができ、また、多くの方々が挙手し、質疑や意見を聞かせてくださり、うれしかったです。訪日団等、日韓間において団体での行き来が可能となった暁には、次回は対面でお会いできることを楽しみにしています。

◆ 韓国側主催機関（韓国国立国際教育院関係者）

日韓両国の学生が意見交換を重ねながら、限られた時間の中でその成果を発表するという過程において、言語面での問題等、苦労も多かったと思います。今回の交流を通じて互いに対する関心がさらに高まり、皆さん自身の成長にもつながったことと思います。今後も皆さんを応援しています。

◆ 韓国側実施機関（韓国長安大学関係者）

コロナ禍においても、日韓両国の大学生がオンライン上で交流できることをうれしく思います。今回の交流を通じて、皆さんには相手国に友人ができました。言語は文化です。今後も皆さん同士が直接言葉を交わしながら、友情を育んでいただければと思います。応援しています。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

 いいね！ 日本 대학생들과 대화를 나눌 수 있었던 귀중한 시간! 내 의견을 정리하여 발표하고, 열린 마음으로 교류할 수 있음에 감사했다. 일본을 잘 모르고 있었고 있던 편견도 깨칠 수 있었다! 일본어 공부도 언젠가 여유가 생기면 해보고 싶다는 생각이 들었다.	 私のサークル 제 동아리 「競技かるた」 교리카루타 いいね！ 韓日 대학생 온라인 교류 1일차 조별 교류 시간으로 처음으로 남측 참가자 3명과 상견례를 했습니다. 서로의 문화에 관심을 가지고 있는 것은 알고 있었지만 친해질 수 있을지는 조금 불안했습니다. 하지만 자기소개를 통해 일본-한국의 매력을 전달함으로써 서로 친해지고 싶은 마음이 더 썩고 긴장이 풀린 것 같습니다. 재차 자국의 매력을 발신하는 것의 중요성을 알았습니다. (저는 일본의 매력을 교리카루타에 소개했습니다.) 日韓大学生オンライン交流1日目 グループ交流の時間で初めて韓国側参加者3名と顔合わせをしました。お互いの文化に関心を持っているのはわかっていましたが、親しくなれるのは少し不安でした。けれど、自己紹介を通して日本・韓国の魅力を伝えることで、お互いに親しくなりたいという気持ちがより芽生え、緊張がほぐれたと思います。改めて自国の魅力を発信することの大切さを知りました。(私は日本の魅力を競技かるたから紹介しました。) #日韓交流 #2022日韓大学生オンライン交流 #JKCF
2022 年 5 月 28 日 (Instagram) 日本の大学生と対話することができた貴重な時間でした。今までは日本についてよく知りませんでしたが、日本に対する偏見をなくすことができました。日本語の勉強もしてみたいと思うようになりました。	2022 年 5 月 28 日 (Instagram) 自己紹介を通して自国の魅力を伝え合うことで、互いに親しくなりたいという気持ちがより一層強まりました。自国の魅力を発信することの大切さを学びました。私は日本の魅力として競技かるたを紹介しました。
 #日韓大学生オンライン交流 日本と韓国の地方都市。 両国とも少子高齢化による過疎化が問題となっている。 お互いの国の政策について話し合い、解決策を考えた。 これからも助け合い、努力できる関係性でいたい。	 下火になった韓国の「NO JAPAN」 日本旅行が再ブーム 6月10日、訪日外国人の回復ペースが鈍化した。韓国でも、6月から外国人観光客への制限措置が緩和されるようになり、2年ぶり月別訪日外国人の増加が予想されている。 「東京・高麗の歴史大紀行」をテーマに、日韓両国を巡る人たちが集まり、歴史を語り、最新のデジタルコンテンツを体験する。また、食文化、文学、芸術など幅広い分野で、日韓両国を巡る人たちが集まり、歴史を語り、最新のデジタルコンテンツを体験する。 不買運動元参加者も日本旅行を切望 日韓両国の学生がオンラインで顔を合わせ、歴史を語り、最新のデジタルコンテンツを体験する。 6月28日、訪日外国人「日韓文化交流事業」が実施されたオンライン交流に参加した。コロナ禍が過ぎつつある中、両国を巡る人たちが歴史を語り、最新のデジタルコンテンツを体験する。 日本では韓国旅行の需要が回復していることが分かった。また、日本の学生から韓国旅行の需要も回復している。このため、日韓両国の学生が歴史を語り、最新のデジタルコンテンツを体験する。
2022 年 6 月 25 日 (Instagram) 日本と韓国の地方都市。両国ともに少子高齢化による過疎化が問題となっています。互いの国の政策について話し合い、解決策を考えました。これからも助け合い、努力できる関係性でいたいです。	2022 年 6 月 19 日 (毎日新聞) 「(見出し) 下火になった韓国の『NO JAPAN』 日本旅行が再ブーム」コロナ禍においても、日韓両国の大学生が一堂に会し、積極的な姿勢で熱心に講義を受講した内容について紹介されました。

6. 報告会での発表内容（抜粋）

ふるさと納税を子育て支援事業に活用
고향 납세를 육아 지원 사업에 활용

- ①市内保育園料と幼稚園授業料の無料化 市内 보육원료와 유치원 수업료의 무료화
- ②子供たちの給食を無料提供 아이들의 급식을 무료 제공
- ③高校生まで医療費無料 고등학생까지 의료비 무료
- ④子育て応援誕生祝い金・最大200万円 육아 응원 탄생 축하금, 최대 200만원

移住意欲の向上と町の活性化
마을 이동 동기 부여 및 활성화

まとめ
정리

- 【第2章】背景と目的
 - ・ 韓女の文化・歴史を調べていく中で、多くの共通した課題がある
 - ・ 韓女の文化・歴史を調べる過程で、多くの共通点と課題がある
- 【今後の日韓交流】今後の交流の重要性
 - ・ 課題解決に向けてより日韓交流を密接に行っていくことが大切
 - ・ 課題解決に向けてより日韓交流を密接に行っていくことが大切
- ・ 日韓の未来を背負う私たち若者の意識を互いに高め合い、多くの人にこの活動を伝えていきたい
- ・ 韓国の未来を背負う私たち若者の意識を互いに高め合い、多くの人にこの活動を伝えていきたい

本プログラムでは、テーマ「日韓の未来と次世代交流」に沿って各グループが設定したプロジェクトテーマに関する成果について、最終日に発表する機会を持ちました。具体的なプロジェクトテーマ例及び結論は下記のとおりです。約1か月間にわたる本プログラムの成果として、多種多様な方策が提案されるとともに、日韓間における相互理解の促進及び友好協力関係の増進について、改めてその重要性を唱える意見が数多く寄せられ、参加者間での認識を共にしました。

●具体例1：日韓両国のZ世代が両国の未来にどのような肯定的な方向を提示していくのか。

今回の交流を通じて、デジタル環境に精通したZ世代だからこそ、自身の関心事や考え等について、相手に直接的かつ自発的に発信していくことによって、リアルで誤解のない情報交換が可能という発見がありました。日韓両国の明るい未来に向けて、Z世代ができることの1つとして、今後も積極的に実行に移していきます。

●具体例2：日韓公教育の比較と展望

外国語教育に関する調査を通じて、学習時間数の不足等、両国ともにそれぞれ課題があることを学びました。意見交換を進めていく中で、日本のような統合型教育の必要性やオンラインを活用した国際交流活動の強化等、両国が相互に学び合い、協力していくことの重要性を再確認しました。

●具体例3：唐津市海洋ごみ問題

以前から取り沙汰されている唐津市の海洋ごみには、韓国で排出されたプラスチックごみも含まれており、日韓両国が協力して解決していくべき問題です。その解決策として、現在、地元の方々や企業が実施している海洋ごみの回収について、両国の一般市民にも当事者意識を持って参加を促す方策として、観光の要素を取り入れた海洋ごみ拾いボランティアを提案します。私たちの海を守るために、日韓両国の一般市民が共にこの問題について考え、協力していくために、私たちから行動を始めます。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金